

パネル討論：マイナンバーの活用は どんな未来を拓くか

2012年3月12日

情報通信政策フォーラム
電子行政研究会セミナー

パネル参加者

- 山田 肇(司会) 東洋大学
- 足立祥代 国際公共政策研究センター
- 阿部知明 内閣官房社会保障改革担当室
- 榎並利博 富士通総研
- 須藤 修 東京大学
- 高井崇志 民主党衆議院議員
- 奈良俊哉 内閣官房副長官補室

三つのテーマ

- マイナンバーを広く行政全般で利用する可能性と障壁
- 民間との情報連携に進む可能性と障壁
- 前に進むために、求められる民間からの意見やアイデア

マイナンバーを広く行政全般で 利用する可能性と障壁



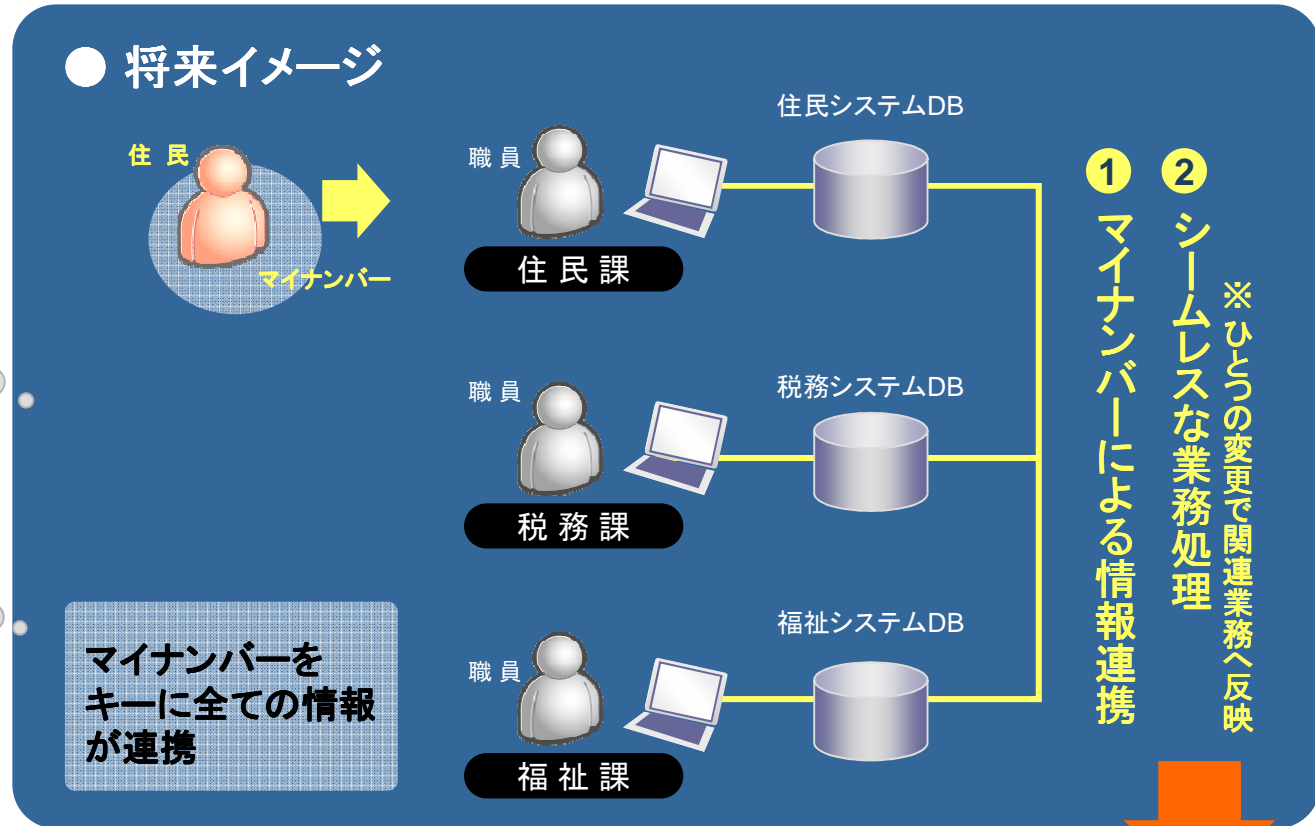
行政の事務効率化

部門ごとに収集・管理していた情報を「マイナンバー」をキーに連携させ、孤立していた情報がシームレスに繋がる

◆ 従来の課題



● 将来イメージ



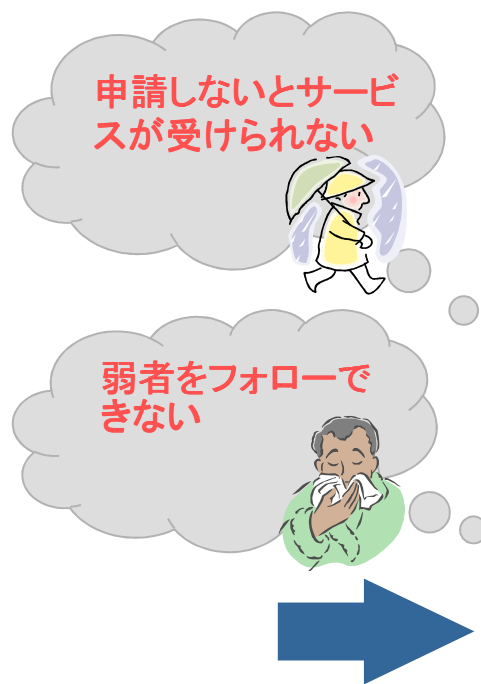
メリット

- A. 事務効率アップによるコスト削減(人員配置、重複作業)
- B. 事務効率アップによるサービス向上(待ち時間、連携サービス)
- C. 住民情報の精度向上(情報の齟齬防止、ヨコ連携による状況把握)

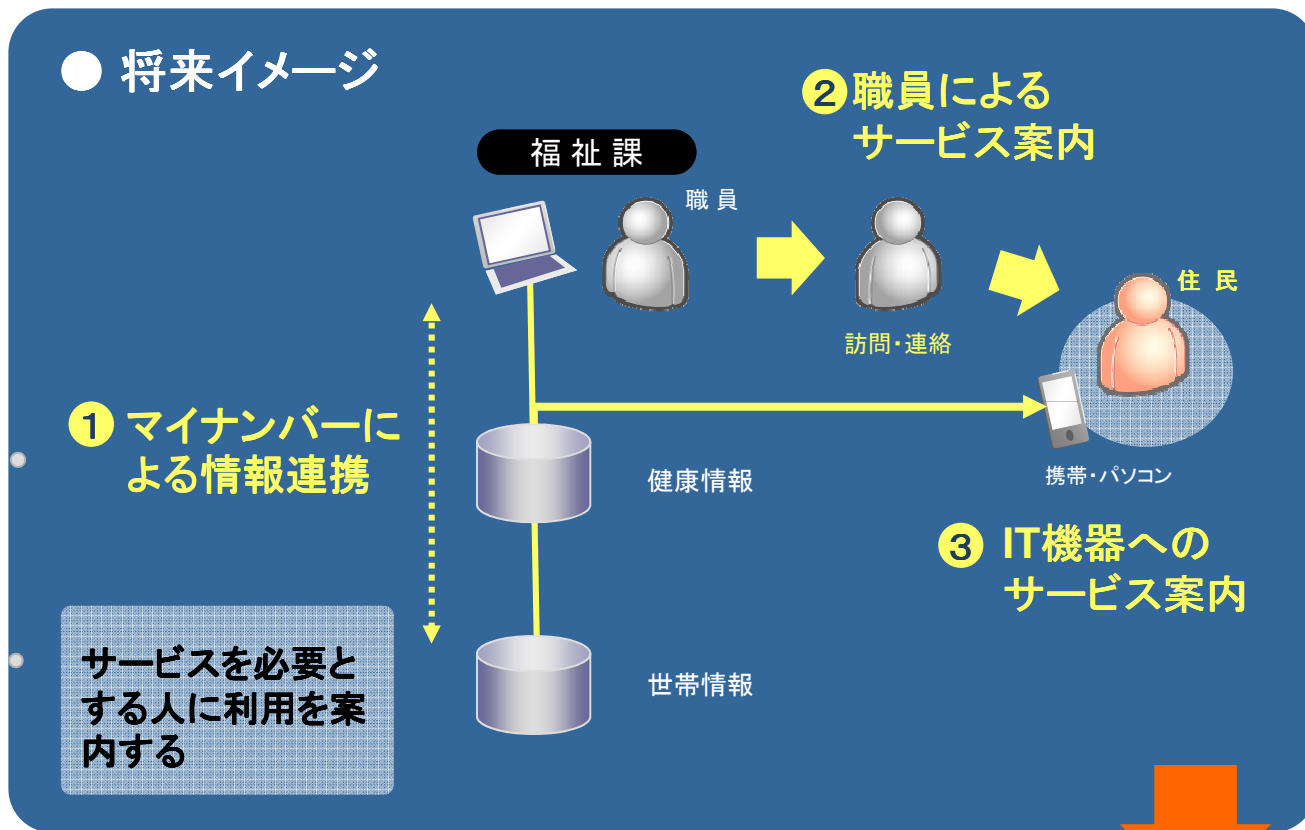
プッシュ型サービス

住民側から申請しない限り受けることの出来なかったサービスについて、役所側が該当する住民を抽出し利用を案内できる

◆ 従来の課題



● 将来イメージ



メリット

- A. 情報整備による事業管理向上 (対象住民数、適用率、進捗など)
- B. サービス向上 (役所側からフォロー、自動通知)
- C. セーフティネット (真にサービスを必要とする弱者への適用)

民間との情報連携に進む 可能性と障壁



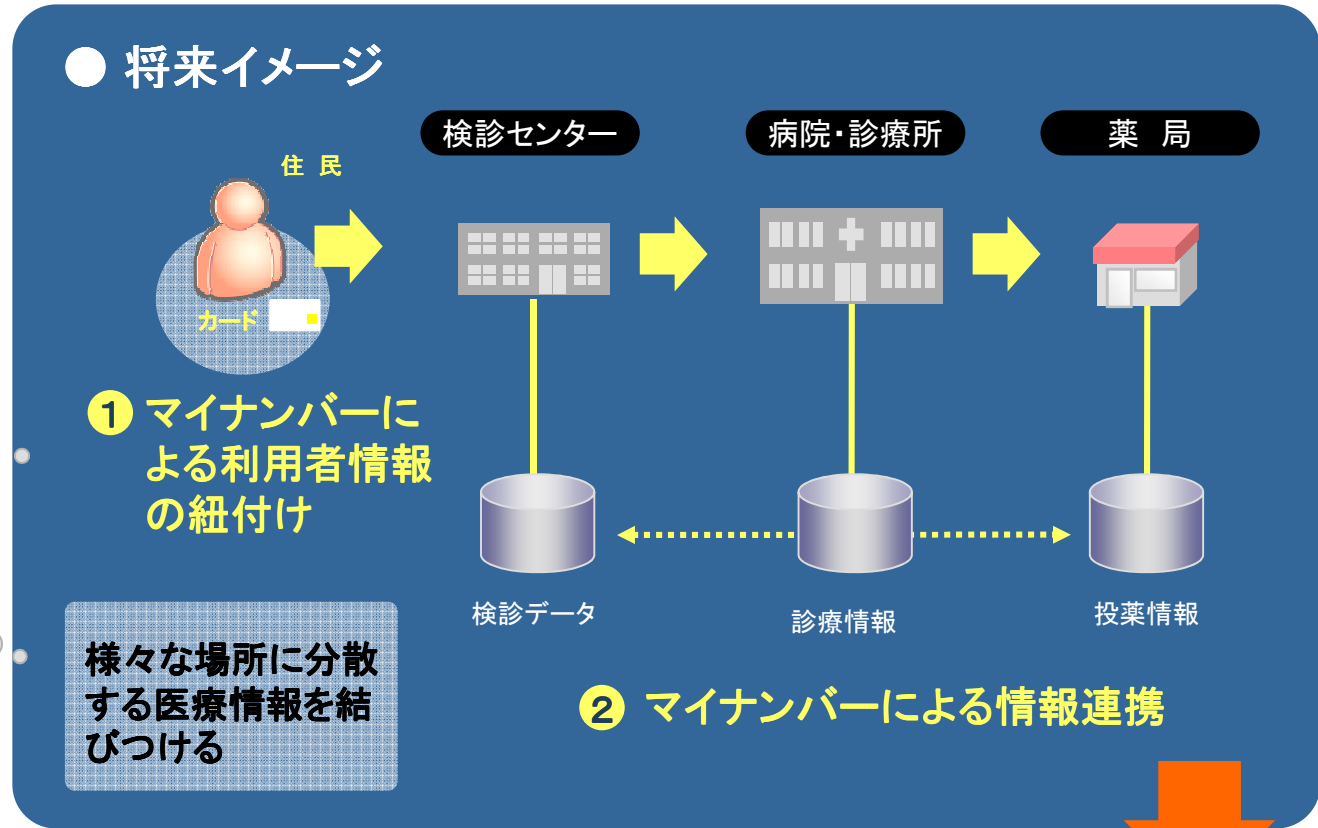
ヘルスケア・サービス

分散していた医療情報を連携させることにより、医療の質を向上させ、効率化・サービス向上する

◆ 従来の課題



● 将来イメージ



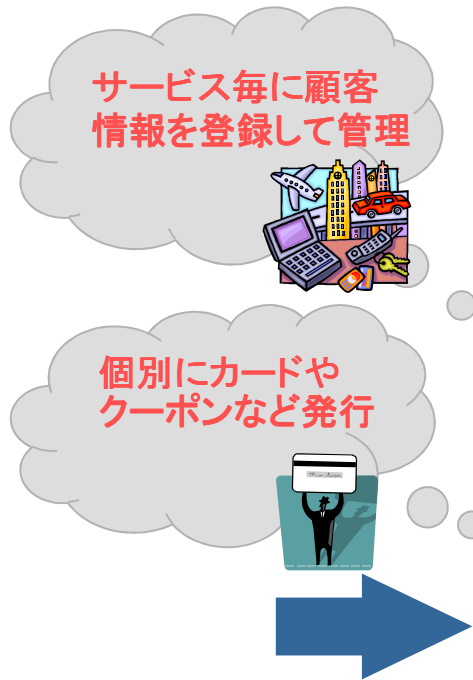
メリット

- A. 治療や投薬の精度向上 (病歴・検査データ共有、投薬や検査の重複防止)
- B. 医療機関同士の連携 (病院と診療所、専門医と非専門医、病院と薬局)
- C. 予防医療 (予備軍への対処、重篤化の防止)

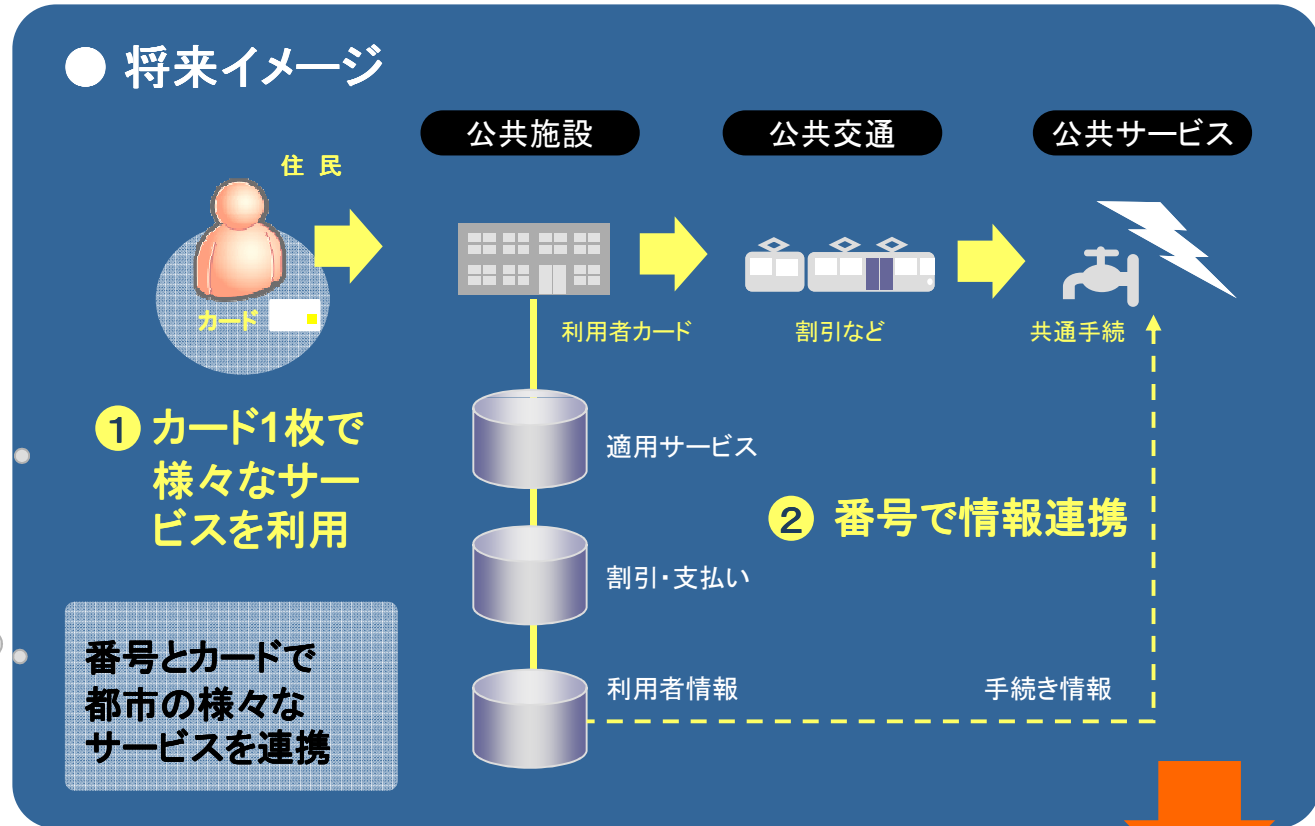
スマートシティ

都市の生活に必要な様々なサービスを連携し、カード1枚で利用できる

◆ 従来の課題



● 将来イメージ



メリット

- A. 公共施策とサービスの連動(補助、免除、免許・認可)
- B. シングル・カードによる利便性(1枚のカードで全て対応)
- C. 情報連携による利便性(情報更新手続、一括した各種公共料金支払い)

課題と論点

- 国民の理解・普及（制度やしきみへの理解、利用）
- 個人情報保護（用途外利用、大規模な情報漏えい）
- IT投資と効果（システム改修、BPRの実施）
- 民間との情報連携（情報共有範囲、連携ルール）
- 公共サービス全体の中での位置づけ
（都市計画、コミュニティ活動、民間サービス）

前に進むために
求められる民間からの意見やアイデア



総括

